



2023年11月25日発行

公益財団法人仙台YMCA  
〒980-0822  
仙台市青葉区立町9-7  
Tel 022-222-7533  
Fax 022-222-2952  
www.sendai-ymca.org  
発行人 / 加藤雄一  
編集人 / 松島見子

# 仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

11



## 仙台市児童館 特集

仙台市の児童館は健全な遊びを通して子どもの健康を増進し情操をゆたかにすることを目的とした児童厚生施設あるいはそれに準じた施設として、4つの機能を持っています。

NPO法人仙台YMCAファミリーセンターは、旭ヶ丘、富沢、西山の3つの児童館を運営しています。最近の児童館の様子を下記に示した機能別にお知らせします！



### 西山児童館 放課後児童健全育成事業(児童クラブ)

- 児童健全育成機能
- 子育て家庭支援機能
- 地域交流推進機能
- 放課後児童健全育成事業(児童クラブ)

児童クラブは、国の基準により児童数40名(おおむね48名)を1単位としています。児童館内(本館)において、支援の単位を超える児童を受け入れなければならない場合は、小学校の空き教室や民間の不動産物件(空きテナントやマンションの一室など)でのサテライト運営をおこないます。西山児童館児童クラブは2022年度4月から本館2単位、西山小学校多目的室1単位でのサテライト運営を開始し、現在は3・4年生がサテライトの利用をしています。

年度の始まりは新しいおもちゃや遊びに夢中の子どもたちも、下半期を迎えるころには既存の遊びには飽きが出てきてしまいます。紙をテープでぐるぐる巻きにしてサッカーを始めては止められ、ペットボトルキャップを窓から落としては止められ・・・どうなることやらと、様々報告を受けていましたが・・・。数日後、あれもダメ、これもダメでは子どもたちも行き場がないので、職員が相談に乗りルールを決めたり、新しい遊びを開発することに子どもたちと取り組み始めるのを見て、嬉しさを感じました。遊びの天才をどう活かすかも、私たちの大事な仕事です。(西山児童館:伊藤 雅宣)

(第2面に続く)



## 旭ヶ丘児童館 児童健全育成機能

旭ヶ丘児童館では、児童健全育成機能の一つとして、2022年4月にジュニアボランティアグループ（アサヒガオカナイン）が誕生しました。活動内容は、①地域のためになることを実施すること、②地球探検隊などの野外活動に参加し、リーダーのお手伝いや下級生のお世話をすることです。

2022年度は、登録2名でスタートしました。1年目の目標は「1年間通して活動する」ということを目標に活動しました。当然ながら、すべての活動が初めて体験することになるので、無理はせず、着実に1年間の活動をやり遂げようという気持ちで始めました。1年目の主な活動は、「自分たち（ナイン）の旗を作ろう！」、「児童館まつりの準備をして、参加しよう！」、「クリスマスコンサートのお手伝いをしよう！」などです。活動自体は、コロナ禍の影響も残る中で、地域行事などはまだ再開できないものも多く、児童館活動のサポート的なものが多かったですが、年度の途中で1名の加入があり、登録3

名で1年目の活動を終えることができました。

2023年度は、現在7名まで登録者が増えました。2年目の今年は「アサヒガオカナインを知ってもらおう！」ということを目指して活動しています。地域行事など様々な行事が再開される中、アサヒガオカナインも積極的に行事参加をし、名前と活動を知ってもらうように努めています。今年これまでにいった主な活動は、「地域清掃活動をしよう！」、「旭ヶ丘まつりのお手伝いをしよう！」、「旭ヶ丘市民センターに参加しよう！」など広く地域の行事に参加できたこと、他、「仙台 YMCA バザーに参加しよう！」などYMCAの特別プログラムにも参加し、活動することができました。2年目の現在、登録者は部活や習い事など、それぞれ忙しくしていることもあって、7名全員揃っての活動はできていないのが現状です。登録者には、「自分の予定もあるだろうから、無理をせず、自分が来れる、来たいと思った時に来てくれたらいいよ。」と伝えています。アサヒガオカナインはこれから3年、4年、5年と続いていった時、地域に求められる存在になっていくのが目標となります。もしかすると、困難なことも出てくるかもしれません。そんな時は、焦らず、じっくりと一歩一歩進んでいきます。

（旭ヶ丘児童館：清野 俊輔）



アサヒガオカナインのみなさん



富沢ちびっこ祭り



## 富沢児童館 子育て家庭支援機能

児童館の大事な役割の一つに「子育て家庭支援」というものがあります。

富沢児童館には午前中を中心に遊具で遊んだり、児童館が企画した様々な行事への参加をしたりするために多くの乳幼児親子が来館します。富沢地域は、保育園就園率が上がり、児童館ニーズの低年齢化が進んでいます。0歳児を対象に行っている自由参加プログラム「BABY ちゃお」。多い時は20組もの乳幼児親子が集まります。育児相談などを通し、子育てに孤独を感じ悩みの多い時期の親子支援をしています。

富沢児童館では、子育て世代のボランティア「レインボーズ2023」というグループがあります。児童館の館庭

整備・図書整理の活動、行事の企画などの活動を共にしています。先日は、「ちびっこまつり」を企画しました。何度も会議や準備を重ね、今年は久しぶりの屋台の登場も！

おまつり当日は14名のメンバーと共に、約150名の親子がおまつりに参加してくれました。普段保育園や幼稚園に通っている親子が「ずっと児童館に行きたいって話していたんですよ」「リーダーにあいにきたよ！」という会話がとても嬉しい一日でした。これからも「つながる子育て支援」を大切に児童館を運営して参りたいと思います。

（富沢児童館：郷古 祐子）



## 「かけがえのない私の宝」 保育教諭 山家早希子

ボランティアを始めたのは、大学2年生の夏。保育の勉強をしていましたが、周りの目が気になり、人前に入る事が苦手な私は、大学前でボランティアのチラシを受け取りました。子どもが好きで子どもと関わりたいという気持ちが自然と一歩前に進み、YMCAでのボランティアが始まりました。

初めてのボランティアは不安なことだらけで、表情の固い私にたくさんのスタッフさん、そして子どもたちが笑顔で話しかけて下さったことを今でも昨日のこのように覚えています。どのように子どもたちと関わったら良いか悩み、振り返りの際に涙を流しながらスタッフさんと話したこともありました。子どもから「ありがとう」の手紙をもらい勇気づけられたこともありました。もう私には無理だと思ふこともありましたが、次の日には、YMCAに戻っていました。気がついたら、フリッパークラブ、プール、アフタースクール、時にはクッキングとスタッフさんから声をかけてもらったことはやってみようかなと週に何度も YMCAに足を運ぶようになり、自分でも信じられないほど積極的な別人になっていました。改めて振り返ると、失敗しても良い、まずはやってみる、悩んだ時はすぐに相談できるスタッフさんや仲間がたくさんいる安心感が、私を成長させていたのだと思います。

YMCA保育園(現・YMCAこども園)に就職し、早くも11年が経ちました。学生時代同様、まだまだ失敗はありますが、あの時と同じようにYMCAが私を支え、前に進ませてくれています。

あの時、YMCAに出会いボランティアという経験ができたことは、かけがえのない私の宝となっています。今後も、この宝物を胸に抱き、人とのつながりを大切に毎日の仕事に励みたいと思います。



## 連載

## 加藤 総主事の

『みつかる。つながる。  
よくなっていく。』

第6回

「留学生日本語プレゼンテーション  
に思うこと」

先日、仙台広瀬川ワイズメンズクラブ主催による日本語プレゼンテーションが仙台YMCAで行われました。今年で3回目になるこのイベントは、仙台YMCA国際ホテル専門学校で学ぶ留学生が、日頃学んでいる日本語で自国の文化の紹介や日本での生活において驚いたこと、これからの夢などを発表するというものです。

ネパール出身の学生は、「結婚」について発表してくれました。ネパールでは今でも階級によって、そして、民族によって結婚できる対象が決まっています。日本のように自由な選択ができないとのこと。「それを守らなければ“村八分”になることもある」という日本語を使って説明してくれました。ネパールは、2018年に厳しい階級制度であるカースト制度が撤廃されていますが、これが完全に浸透するまでにはまだ時間がかかるものと思われます。日本では、「皆が平等であり対等である」ことが、多くの日本人の意識の中に埋め込まれていますが、他の国々ではまだまだ当たり前とは言えない状況もあります。

ミャンマー出身の学生は、YMCAに入学する前は、ピザ屋を経営していました。ミャンマーは2021年2月に軍によるクーデターが起こり、自由と民主主義を求める人々が抗議行動を行うなかで、暴力や政治的混乱が続いています。ある日突然ピザ屋経営には欠かせないインターネットが止まり、ピザ屋ができなくなり、人生の絶望を感じたそうです。軍隊に行くか、海外に行くか、大きな選択をして仙台YMCAに入学してきました。留学ビザを得るまでも様々なチェックがあり、予定よりも数か月遅れての入学になりました。彼は慎重に言葉を選びながら、「平和な生活と夢に向かって自由に生きることができる世界を望む」と語っていました。

ウクライナ、パレスチナ、ウイグルなど世界のいたるところで、人間の命や尊厳が失われています。日本で学ぶことができる彼らはむしろ幸せなのかもしれません。だとすれば尚更、彼らがたくさんの愛に囲まれた生活が送れるように精一杯伴走していきたい。多くの愛を受け取った彼らは他の地においても必ず、リーダーとなり、その愛を分け与え、平和を作り出す人になってくれると信じています。



## 仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

## 共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

## 喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおり、共に成長できる生き方をすすめます。

## 世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

## 地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

## ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。

## 子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かにたくましい人間に育つよう支援します。

仙石寛子さん（大和さん・治子さんの母）

「絶対に泳げるようになってた方がいいよ！」当時、私の母親の口癖でした。小学校の水泳の授業で苦労した母は、保育の中でスイミングを取り入れているYMCA幼稚園に通わせてくれました。毎日の幼稚園へ向かう車の中は、3人の子育てと家事で忙しかった母との大切な時間でした。そして、幼稚園で出会ったスイミングや讚美歌は、その後の私にとって、なくてはならないものとなりました。

兄弟3人、YMCA幼稚園を卒園した後も、スイミングやサマーキャンプ、スキーキャンプ、アドベンチャークラブ、たくさんのプログラムに参加させていただきました。父が仕事で忙しく、休みの日のほとんどを家で過ごしていた私たち兄弟にとって、YMCAでの経験は本当に大切だったと感じます。

私がYMCAと出会ってから40年、私の息子(小4)、娘(小3)、甥っ子(小2、年中)、家族みんなで、YMCAにお世話になっています。今年の夏、子どもたち3人、「花山自然キャンプ」に参加させていただきました。「今までで一番楽しかった！来年も絶対に行きたい！」息子がうれしそうに話してくれました。生き物が大好きな息子は、沢遊びの時に、足元を泳ぐ天然の岩魚を見つけて、とても感動していました。初めての野外炊飯、木工クラフト体験、高学年のお兄さんたちと過ごした3日間は、とてもいい思い出になったようです。バスで帰ってきた時の少したくましくなった顔、私を見て「ホッ」とした顔、少し寝不足の顔、子どもたちのたくさんの表情が忘れられません。

私にとって、YMCAとの思い出は、「家族との思い出でもあるんだ」と、改めて感じています。YMCAに通わせてくれた両親に、いつも子どもたちに寄り添って、あたたかく見守ってくださる先生方、リーダーの方々に、そして、今回このような機会を頂けたことに心から感謝をしています。これからもよろしくをお願いします。

仙石寛子さん（右端）



## Column

## 第52回仙台YMCAクリスマス実行委員長 涌澤 博（青葉城ワイズメンズクラブ）

2020年～2022年度まで規模を縮小して行われて来たYMCAクリスマスですが、今年は4年ぶりに規制なしでYMCAクリスマスを開催する予定で準備を進めています。昨年度までは中止を含め規模縮小、食事制限、人数制限などで実行委員会でも開催に当たり難しい選択を迫られたり、楽しみにしておられたのにもかかわらず、参加できなかった方々も多くいらっしゃったのではないのでしょうか。

さて、仙台YMCAクリスマスも今年で52回目を迎えます。コロナ禍を経て、これまで仙台YMCAクリスマスが続けて来られたのも、毎年多くの企業様からの協賛をはじめ、多くのボランティアの方々のお支えがあったからこそだと感じております。毎年ご協賛いただいている企業様、ボランティアの皆様には心より感謝申し上げます。現在クリスマス実行委員会では、参加していただく皆様により楽しく過ごせるクリスマス会を目指して準備を進めております。牧師先生によるクリスマス礼拝、ご協賛いただいたご馳走はもちろん、ボランティアの方々がお心を込めて作ってくださる手料理のご提供、子どもから大人、そして外国人の方も一緒に参加できるゲームアトラクションなどを考えております。

仙台YMCAクリスマスは、より多くの市民、留学生、外国人、子どもたち、ボランティアのみならずに参加していただき、交流を深める事を目的としています。母国に帰らず仙台でクリスマスを過ごす留学生や外国人の方も多く、彼らに楽しいひと時をプレゼントできればと思っております。このコラムを読んでいただいた皆様には、YMCAをご存知の皆様はもちろんのこと、まだご存知でない方、友人知人など幅広く参加を呼び掛けていただき、一緒に楽しいひと時を過ごしていただければと考えております。

毎年このクリスマス会を楽しみにして下さっている方々の為にも、委員会メンバーはじめ、YMCAスタッフ、ワイズメンズクラブ、学生、一般ボランティアが一体となって、準備を進めております。皆様のご参加を心よりお待ちしております！



## 維持会費 (10月24日～11月21日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

維持会員B  
岸田 清実

※敬称略



## 一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、  
仙台YMCAの活動をお支えください  
お問い合わせ：本部事務局

TEL: 022-222-7634  
FAX: 022-222-2952